

植物と暮らすミャンマー 3 : 花飾り(1)

ミャンマーの女性は日常的に髪を花で飾ることが多い。歳によらず老いも若きもである。村の家の周りには、さまざまな花木が半自然的に生えていて、二、三輪の花を朝に摘んで使う。よく見るのは、ジャスミンの仲間のマツリカ / *Jasminum sambac* (Sabe) やケソケイ / *J. multiflorum* (Tawsabe) の白い花だ。アラビアジャスミンとも呼ばれるマツリカは、八枚の花弁を持つ直径 4 cm ほどの小さな花で、系統によっては八重のものもある。一、二枚の葉がついた八重の白花は結った黒髪をよく引き立てる。八花弁のマツリカの花は、60 cm ほどの糸にたくさん通して飾り紐にしてよく売られている。仏壇のふちや車のバックミラーなど色々なところにかけて飾る。ジャスミンだけあってとても香しい。ケソケイは半つる性の低木で、街では路傍に、村では林縁や小川の縁などに野生で繁殖している。六つから九つの花弁が星形に広がる花は、マツリカより小さくかわいい。エーヤワディーの村の童女たちが、花を摘んでは麦わら帽の周りを飾って遊んでいるのを見たことがある。都会の忙しい女性には徐々に縁遠くなってきているものの、花は今でもミャンマーの身近な飾り材料だ。

(大野勝弘)



マツリカ(茉莉花)の飾り紐。市場でも路上でも、国中どこでもよく見られる(右はシュクシャの花)。



小学校の帰り道、川べで摘んだケソケイ(毛素馨)で帽子を飾る(Nwege Kon 村)。